

## 第6回インフラ海外展開推進のための有識者懇談会 結果概要

日時：平成24年12月26日（水）10：30～12：00

場所：合同庁舎2号館16階 国際会議室

### 【最終取りまとめ（案）について】

最終取りまとめ（案）の内容について事務局より報告を行ったところ、以下のようなご発言があった。

#### （総論）

- 懇談会の議論や最終取りまとめ（案）を積極的にPRして海外展開に関する予算を多く取っていただきたい。
- 問題意識も的確でよくまとまっている。新しい内閣でも政官一体でぜひ積極的に取り組んでいただきたい。取り組んでからの検証も必要である。
- チームとしての営業力の強化や継続的な政府間協議を通じてパイロットプロジェクトを立ち上げ、オール・ジャパンで取り組んでいただきたい。
- 全体を通じて特に違和感はない。今後重要であるのは、時間軸を意識した上で、具体的に何をどうやるのかということである。個々のインフラを整備することは簡単ではないが、海外展開をするにあたって何か一つを具体論で仕上げていただきたい。
- よくまとまっていると思う。インフラ展開というのはODA予算をつけて終わりではなく、相手国の利益を実現することが大事。歴史的な位置づけを踏まえ、将来の発展を相手国と共有し、人材育成の意味を含め、勉強会のような共に学ぶ取組、そういう形の予算の執行もお願いしたい。
- 本懇談会において、業界横断的に一定の考え方が共有され、また違いも明らかになった。
- 国と国との関係の中では、大使館、関係省庁やJICA、NEXIといったオール・ジャパンで取り組んでいかないといけない。省庁をまたがって情報の共有をお願いしたい。この最終取りまとめも国交省にとどまらず、省庁をまたがって共有して欲しい。

#### （全体構成）

- 最終取りまとめのタイトルを検討してはどうか。キャッチーなタイトルにしてほしい。
- 基本的考え方と本編の要点を説明したパワーポイントの資料があってもよい。パワーポイントは英語版も作成してほしい。

(基本的考え方・本編)

- 追加すべき言葉として「風土」があると思う。「風土、文化等の尊重」とするのはどうか。
- 対外的な側面だけでなく、日本国内においても内なる国際化として、例えば日本の都市の国際競争力の強化に関する取組みが必要であると思う。
- インバウンド、内なる国際化については検討を続けていただきたい。インバウンドの取組はアウトバウンドを進めるうえでも重要であるとする。
- わかりやすい取りまとめに感謝したい。長期的に粘り強く取り組むことが大事である。本編にフォローアップの内容を記載し、取組みの継続性を示したのは良いことだと思う。
- インフラ海外展開において大学が果たす役割とは、日本人の国際人材を育成するのみならず、大学間のネットワークを活用して現地に行ったり現地で人を育てたりできることだと考えている。
- 大学とは人材を育成する場であるのみならず、交流の場。そのネットワークをインフラ海外展開にも大いに活かしてほしい。
- 「リスクの軽減」については、インフラ案件は競争が厳しくローリターン・ローリスクでないと成り立たないので、いかにしてローリスク案件にできるような官で支援していただきたい。
- 海外展開にあたっては相手国の事情にも考慮し、お互い win-win の関係になれるようリスクの軽減等考える必要があり、PPP などリスクを軽減できて完成した設備・システムが継続的に相手国で運営できるスキームを考えねばならない。民がリスクを取れない部分に関しては、日本政府から相手国政府に改善を説得していただきたい。
- リスクのないプロジェクトはなく、コントロール可能なリスクは民間で負担するが、ライダーシップや土地収用は民間では負いきれないリスクであるため、政府による協力をお願いしたい。
- 我が国の強みとして「ライフサイクルコスト」を入れていただきたい。具体的施策リストの中に、「民間金融を補完する長期資金の提供等大規模で複合的なプロジェクト～」とあるが、補完に留まらず、官民一緒になって取り組むべきという前向きな書き方にしてほしい。

(フォローアップ)

- フロントラインで活躍している関係者に非公式に集まってもらって意見を賜る機会を作ってはどうか。各企業の前線で国際展開を行っている方々にも意見を聞くことを今後検討いただきたい。

最終取りまとめ（案）は、適切な調整を踏まえた上で、後日公表する予定。